

委員会 レポート

委員会活動として、閉会中に行った所管事務調査の結果内容を、各常任委員会は第4回定例会において、次のとおり報告しました。

総務文教常任委員会

委員長 橋本晃明

調査事項

- ① 総合行政システムの整備について

- ② 所管施設の現状について

調査の結果

- ① 総合行政システムの整備について

本年度、更新するとしている新総合行政システムについて、導入の基本的な考え方等を担当課から聞いた。

- 更新の必要性

- (a) システム機器の老朽化

- (b) 平成19年度末で現システムの保守対応終了

- (c) 後期高齢者医療制度システムへの対応が不可

- 能

- システム更新の基本方針

- (a) 業務効率化のための柔軟な操作性

- (b) システム移行にあたって業務に支障がないこと

- システム導入事業者の選定

複数事業者による提案方式を採用し、職員で構成する選定委員会です十分検討し、すべての機器が導入可能な1社を選定する。7月中旬には事業者を決定。

● システム経費

1億7526万円

② 所管施設の現状について

財政に見合った保持に向けて、次年度からの行財政健全化実行プラン(第二次緊急3カ年計画)で施設の統廃合を検討しなければ

ならない状況であり、本委員会が所管する社会教育施設を中心に施設見直し、担当課の説明を聞いた。

● 見学施設

農業研修会館、体育館、文化センター、少年自然の家、剣の郷創造館、学校給食センター、御影公民館、御影農村環境改善センター

(説明のみ)図書館、きたくま文化蔵

産業厚生常任委員会

委員長 森岡慎治

調査事項

- バイオエタノール事業について

調査先

- 帯広市

調査の結果

バイオエタノール事業について産業振興課職員の出席を求め説明を受けた後、帯広市において、環境省から委託された「ガソリンにエタノールを3%混ぜた燃料の寒冷地での

実証実験」を行っている財団法人十勝圏振興機構を訪問し、担当者から国産バイオエタノールの現状と課題及び製造・実施実験に伴う環境保全と産業の活性化について説明を受け、バイオエタノールに関する基本的な知識を深めた。

バイオエタノール実証プラントの設置については、地域計画書を農林水産

省へ提出後、外部専門家などで組織する審査委員会

で審査され、承認後事業実施計画書の提出を行う運びとなる。

なお、財団法人十勝圏振興機構の実験においては、寒暖の差が非常に大きい十勝においてもE3の燃料は通常のガソリンとほとんど差は見られなかったとの結果が出ているが、今後においては、揮発油税、石油業界との関係、また、バイオエタノールの原料

問題等課題が残されているとのことである。



財団法人 十勝圏振興機構にて

閉会中の 委員会活動

総務文教常任委員会

- ① 教育施設の現状と本町独自の取り組みについて

産業厚生常任委員会

- ① 高齢者等福祉対策について

- ② 地産地消の状況について

議会運営委員会

- ① 議会の運営とその諸規定について

- ② 議長の諮問に関する事項について



文化センターにて(所管施設見学)